

# 地域社会のために



提供された食事を手にする子どもたち

## 基本的な考え方

UDトラックスのもつ専門性や人材、施設・設備、機能といった経営資源を活かして、社会貢献活動に取り組んでいます。事業所を置く地域コミュニティや自動車関連業界など、さまざまなステークホルダーのニーズや課題に寄り添い、共に価値を生み出す活動を通じて、より良い関係を構築し、持続可能な社会の実現に寄与することをめざしています。

## UDトラックス南アフリカの取り組み

### 食料提供プログラムを支援

UDトラックス南アフリカは、2007年から同国の貧困地域の人々へ食事を提供する「ショップライトモバイルスープキッチン」の取り組みを支援しています。これまでに、4,100万食以上の高栄養スープとパンを届けてきました。現在は、UDトラックスの車両6台を含む19台の移動キッチンカーが週6日稼働し、月平均30万食を提供しています。また、南アフリカだけでなく、隣接するアンゴラの子どもたちにも支援を広げています。

2020年、新型コロナウイルスが南アフリカ経済に大きな影響を与えたことで、この取り組みはさらに重要なものとなっています。全国的なロックダウン以降、南アフリカ全土145の団体に8万食以上を提供しました。困難な局面にあっても、地域の企業の社会的責任として、これからもコミュニティへの貢献に取り組んでいきます。



## 小学生向け交通安全教室

埼玉県は、営業用トラックによる死亡事故件数が常にワースト上位に位置しています\*。UDトラックスは、埼玉県に本拠を置くトラックメーカーの社会的責任の一つとして交通事故の防止に貢献することを目的に、2016年から上尾市の小学生を対象に交通安全教室を実施しています。

「体験」を重視したこのプログラムでは、1学級ごとに、大型トラックを使用して死角や内輪差を体験しながら、安全行動について学んでもらっています。また、プログラムの最後には大型トラックの運転席に座り、トラックドライバーから車外がどのように見えるかも確認します。引率の先生からは、「実際に自分の目で確かめたり体験したりできるので、子どもたちの安全への意識が高まりました。運転席に座れたことも貴重な経験になりました」などの感想をいただいています。2019年までの4年間で児童1,934名が参加し、のべ197名の従業員がスタッフとして運営に携わりました。

\*公益社団法人全日本トラック協会の統計データより。対象は、営業用トラックのうち軽自動車を除く。

## 小学生の校外学習の受け入れ

2019年6月、上尾市内の小学校の特別支援学級に通う児童の校外学習を受け入れました。参加したのは「食」について学習を重ねてきた1年生～6年生までの児童で、さいたま市内の食品卸売市場を見学したあと、食品の輸送に欠かせないトラックについて学ぶためにUDトラックスを訪れました。

この校外学習では、まずUDエキスナリエンス・センターにおいて、過去から現



在、未来に至るトラックの変遷を紹介しました。その後、屋外で荷物の積み下ろしのデモンストレーションを行いました。大型トラックのウィングが自動で開くと大歓声が沸き、それと同時に、卸売市場で見た食品が、どのようにトラックに積み込まれるのかが具体的に想像できたようでした。今後も学校から要望があった場合は、地域社会への貢献の一つとして積極的に対応していきます。

## インターネット体験会

自分たちのスキルを社会に還元したいという思いから、IT部門の従業員が中心となって60歳以上の上尾市民を対象に2016年から「インターネット体験会」を開催しています。ITツールに不慣れなシニア世代の方が、インターネットを通じて有益な情報や興味・関心のある情報にアクセスできるよう支援し、そのQOL(生活の質)向上に貢献することを目標にしています。参加した方からは、「緊急災害情報や路線案内など日常生活に必要な情報を手元ですぐに入手できるようになった」「教材や説明がわかりやすく、これをきっかけにもっと使いこなせるようになりたい」などの声が寄せられています。

2019年からは、機材をPCからタブレットに変え、音声入力機能やアプリを活用したより簡単で便利な使い方を紹介しています。この体験会では、講師の

ほかに、参加者2名を1名の従業員がサポートし、ITツールに触れるのが初めての方にも無理なく楽しく参加していただけるように工夫しています。

## 新型コロナウイルスへの対応

2020年に入り世界中で新型コロナウイルス感染症の拡大が大きな影響を及ぼしていることを受け、UDトラックスは、それぞれの地域で支援活動を行っています。

日本では、5月に上尾市の公立保育所に5,000枚のマスクを寄贈しました。これに対して市長の畠山氏より、「小中学校は休校になっても、保育所は通常どおりお子さんたちを受け入れており、ウイルス蔓延を防ぐための職員の苦勞は計り知れない。マスクの入手もまだまだ困難で、今回の寄贈は本当にありがたい」と、感謝の言葉をいただきました。

また6月には、本社近隣の上尾市立大谷小学校にマスク5,000枚を寄贈し、学校再開後の感染予防に役立てていただきました。

タイでは、パンデミックの発生に備えて従業員が献血を行いました。7月、タイ北東部のコーンケン販売店で、地元の病院との協働で献血デーを実施し、50名以上の従業員が協力しました。

インドネシアでも、コロナの影響で職を失い困窮する住民に、米や調味料など生活に必要な物資を届けました。

